

デジタル田園都市国家構想実現のための生活用データ連携基盤推奨モジュール
拡充・運用・自治体への運用支援等事業

パーソナルデータ連携モジュールの紹介と データ連携基盤検討における要点

2024年10月

一般社団法人データ社会推進協議会



- パーソナルデータ連携モジュールの紹介と関係組織の活動について
 - パーソナルデータ連携モジュールについて
 - データ社会推進協議会と開発コミュニティの活動概要
- パーソナルデータ連携基盤における要点
 - データ管理の責任と権限範囲を考慮した契約形態の選定
 - 利用者の理解・納得感を得られる同意情報の管理
 - 事業者間でのデータ流通の柔軟性・サービスの拡張容易性
- 普及の過程で想定される課題および解決方針

パーソナルデータ連携モジュールについて

- 令和3年度のデジタル庁様 調査研究※に基づき、パーソナルデータを扱うブローカー機能を生活用データ連携基盤の公認モジュールとして公開しているもの。本モジュールはMITライセンスのOSSである。

※生活用データ連携に関する機能等に係る調査研究

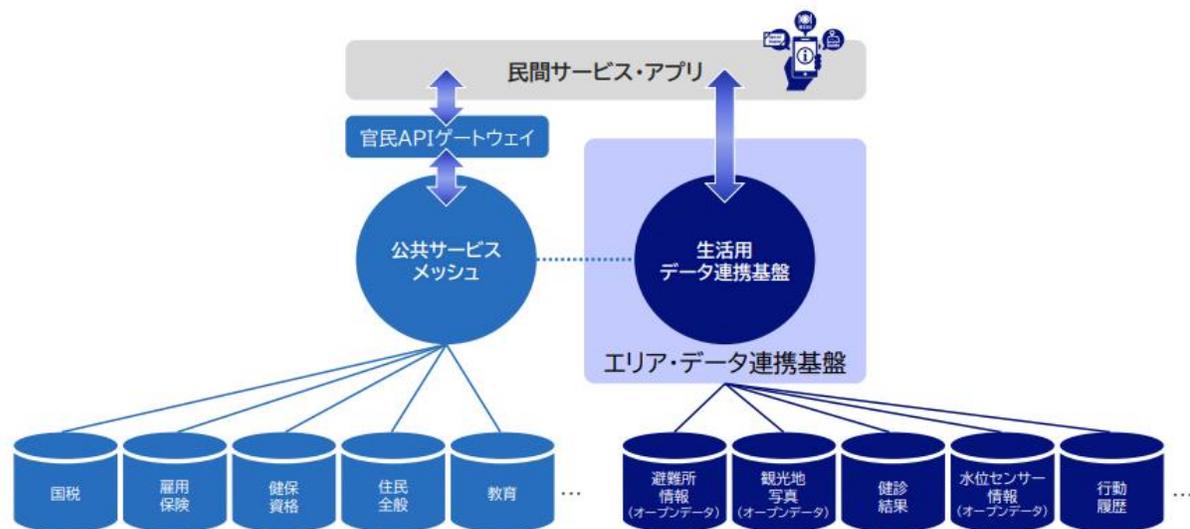


図 1-2-4 公共サービスメッシュと生活用データ連携基盤の関係

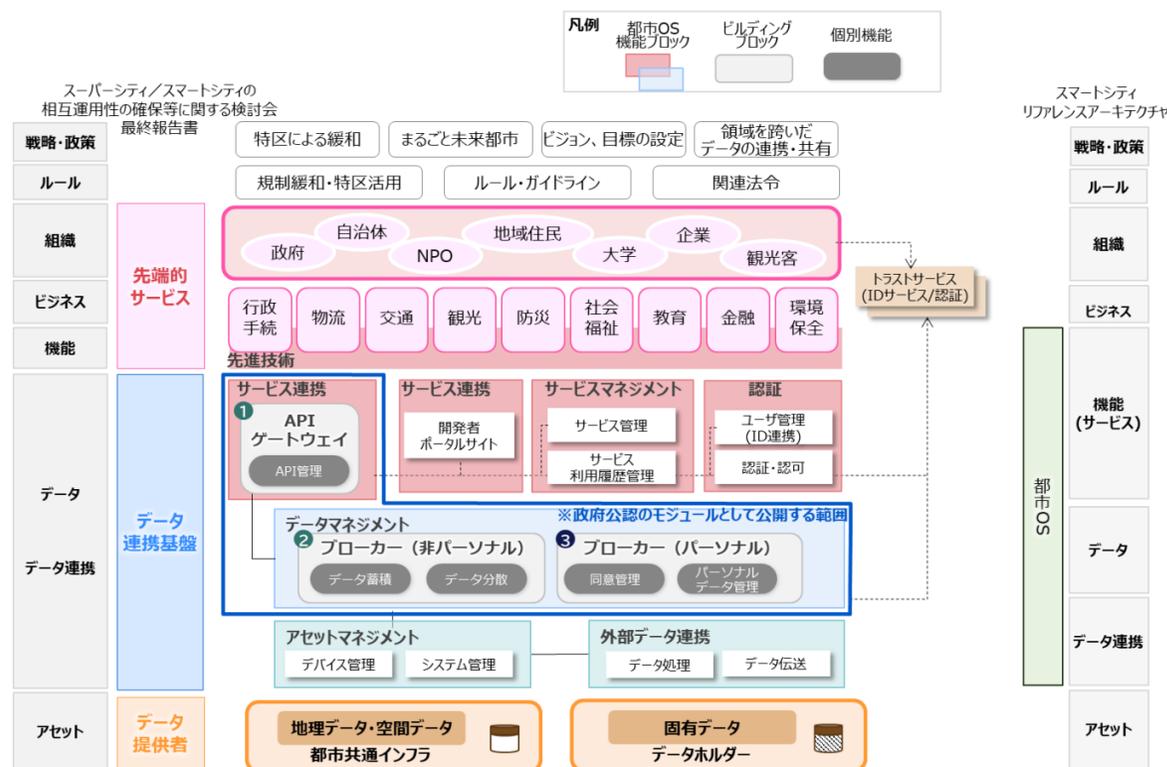
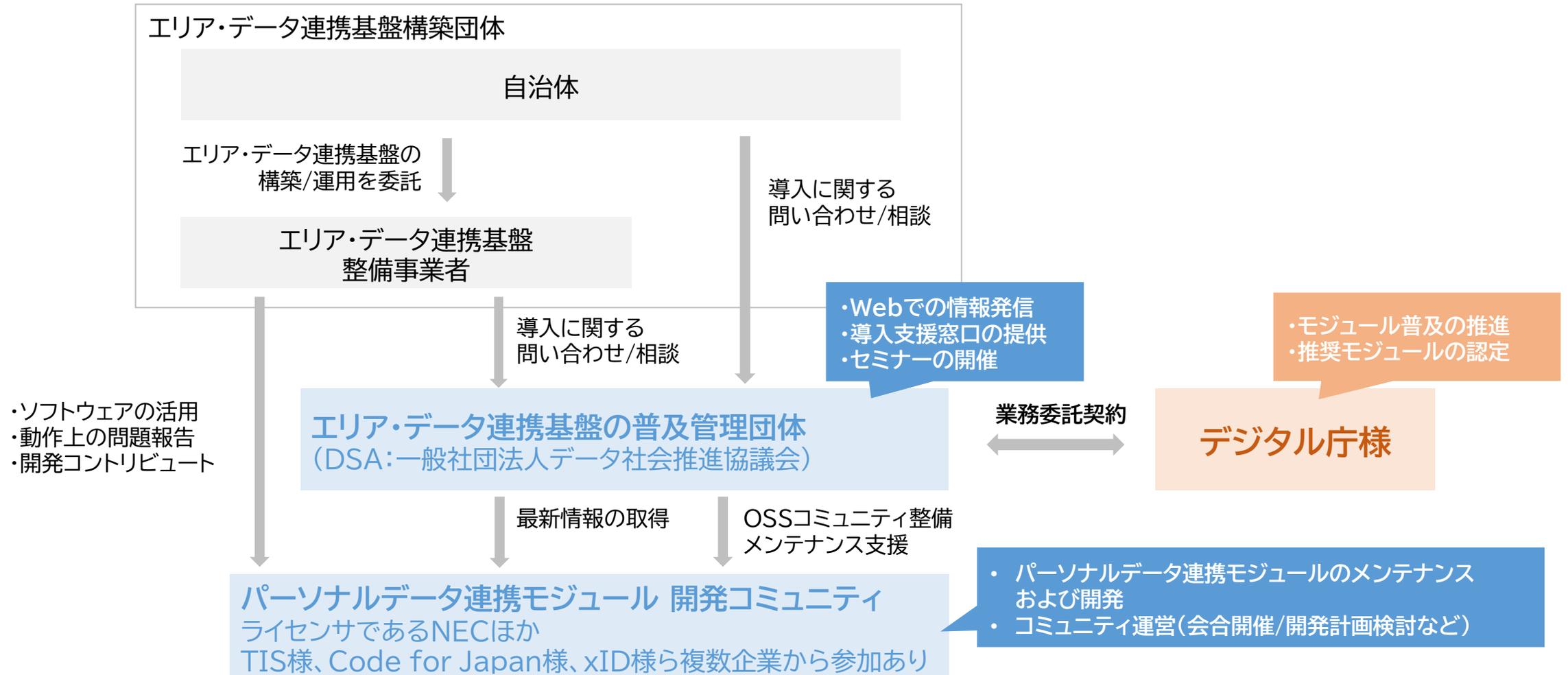


図 2-1-3-1 生活用データ連携基盤における公認モジュールとして公開する範囲

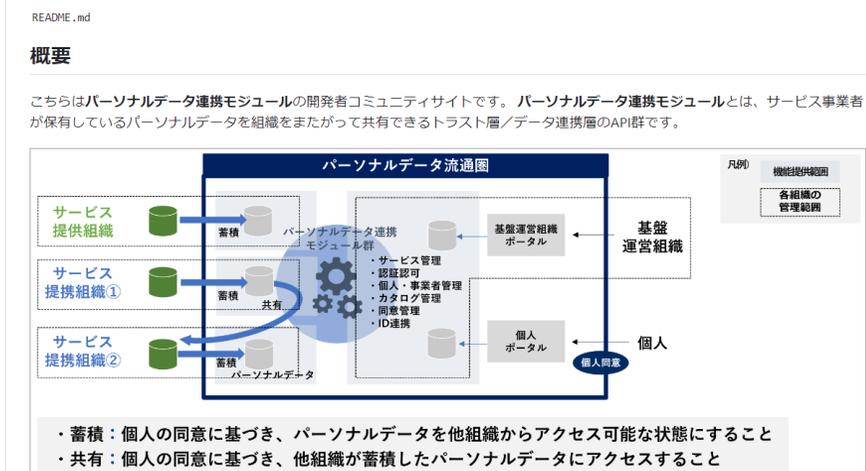
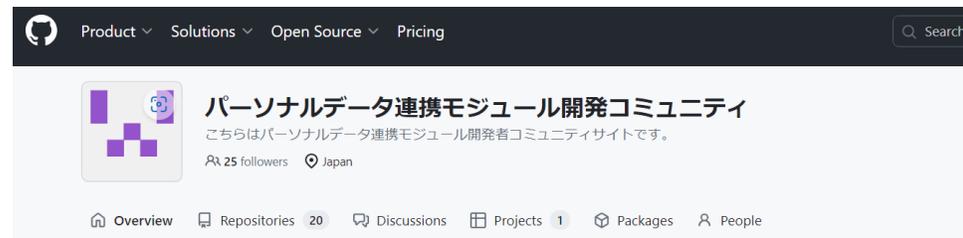
データ社会推進協議会と開発コミュニティの活動概要

- エリア・データ連携基盤の普及促進のため、DSAが導入相談窓口やセミナーを開催している。
- モジュールはOSSであるため、有志の開発コミュニティでメンテナンスや開発の持続に取り組んでいる。



これまでのコミュニティ活動の成果物について

- 過去に開催した技術セミナーは、DSAのホームページにアーカイブ動画が公開されている。
- モジュールの説明資料等はGitHubにも格納されている。



パーソナルデータ連携モジュールの概念図

活動情報

開発活動

プロダクトの状況は、[メンテナンス用プロジェクト](#)で管理されています。バグや質問への対応状況を確認することができます。また、本コミュニティは、運営および開発メンバーを随時募集しています。メンバーとして参加を希望する方は、[メンバー加入希望](#)

[パーソナルデータ連携モジュール開発コミュニティ・GitHub](#)

◆概要資料:

[pxr-linkage/doc/セミナー/20221227 パーソナルデータ連携モジュール 説明会資料/パーソナルデータ連携モジュール 説明資料 v3.pdf at main · Personal-Data-Linkage-Module/pxr-linkage · GitHub](#)

◆自治体職員様向け動画、資料:

[【開催レポート】第2回 エリア・データ連携基盤 技術セミナー | 一般社団法人データ社会推進協議会\(DSA\) \(data-society-alliance.org\)](#)

◆構築事業者様向け動画、資料:

[【開催レポート】第3回 エリア・データ連携基盤 技術セミナー | 一般社団法人データ社会推進協議会\(DSA\) \(data-society-alliance.org\)](#)

◆接続事業者様向け動画、資料:

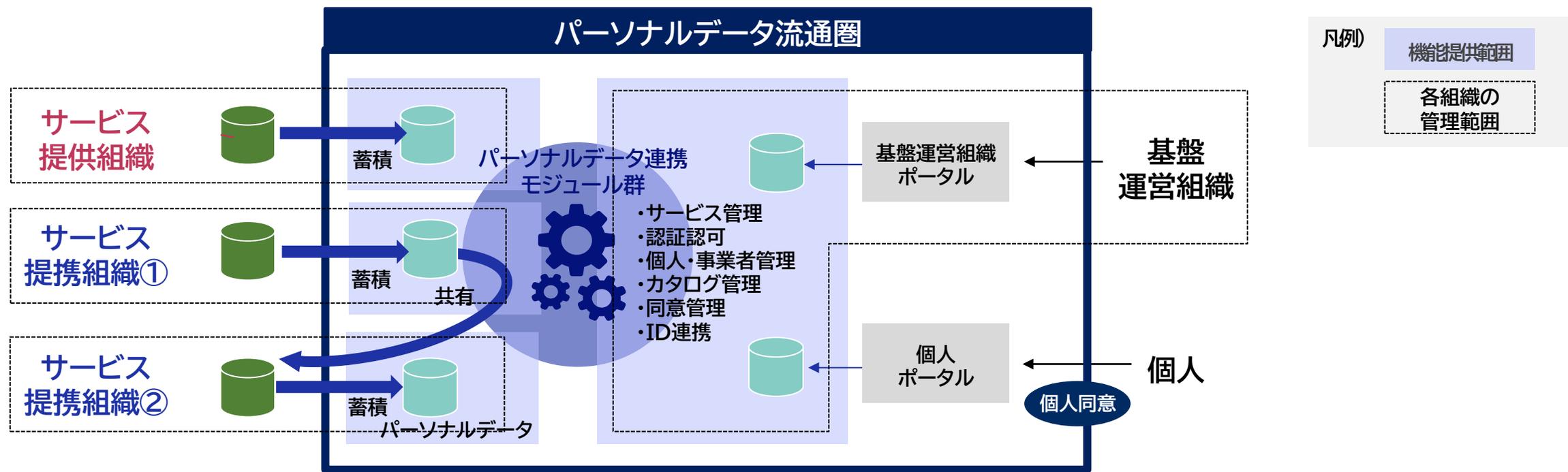
[【開催レポート】第4回 エリア・データ連携基盤 技術セミナー | 一般社団法人データ社会推進協議会\(DSA\) \(data-society-alliance.org\)](#)

◆その他関連情報DSA:

[推奨モジュールの概要 | 一般社団法人データ社会推進協議会\(DSA\) \(data-society-alliance.org\)](#)

パーソナルデータ連携モジュールの概要

- パーソナルデータ連携モジュールとは、サービス事業者が保有しているパーソナルデータを、個人同意に基づき組織をまたがって共有できる、トラスト層/データ連携層の機能群。

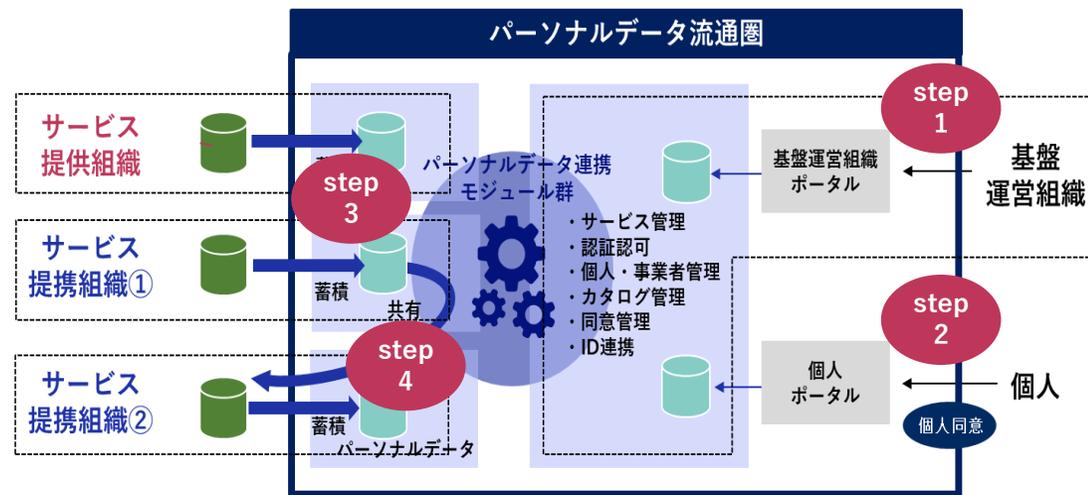
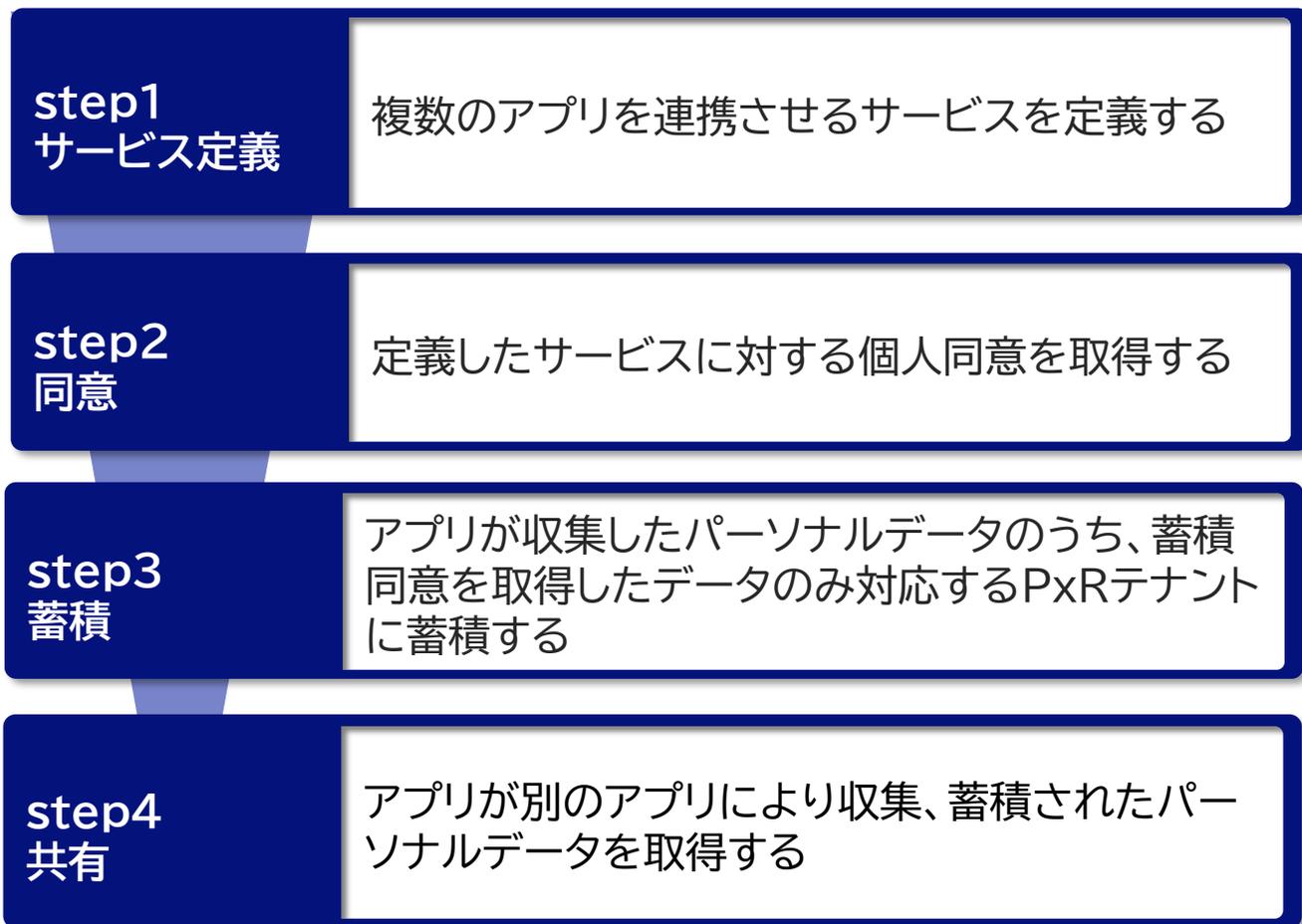


- 蓄積: 個人の同意に基づき、パーソナルデータを他組織からアクセス可能な状態にすること
- 共有: 個人の同意に基づき、他組織が蓄積したパーソナルデータにアクセスすること

詳細は[パーソナルデータ連携モジュール説明資料](#)を参照

パーソナルデータ流通の概観

- 4つのstepを通じて、各アクターとパーソナルデータ連携モジュール群(API群)が連携し協調動作することでパーソナルデータ流通圏を形成。



スマートシティにおけるパーソナルデータの取り扱いの要点

- 自治体がスマートシティの立ち上げるなかで、パーソナルデータの利活用については十分な知識に基づいてサービスの形態を決め、それに合った基盤を整備する必要がある。

データ管理の責任と権限範囲を考慮した契約形態の選定

個人情報の取り扱い管理主体やサービス提供主体など責任分解の明確化

利用者の理解・納得感を得られる同意情報の管理

安心・安全に利用者個人のパーソナルデータが取り扱われるためのプライバシーポリシー

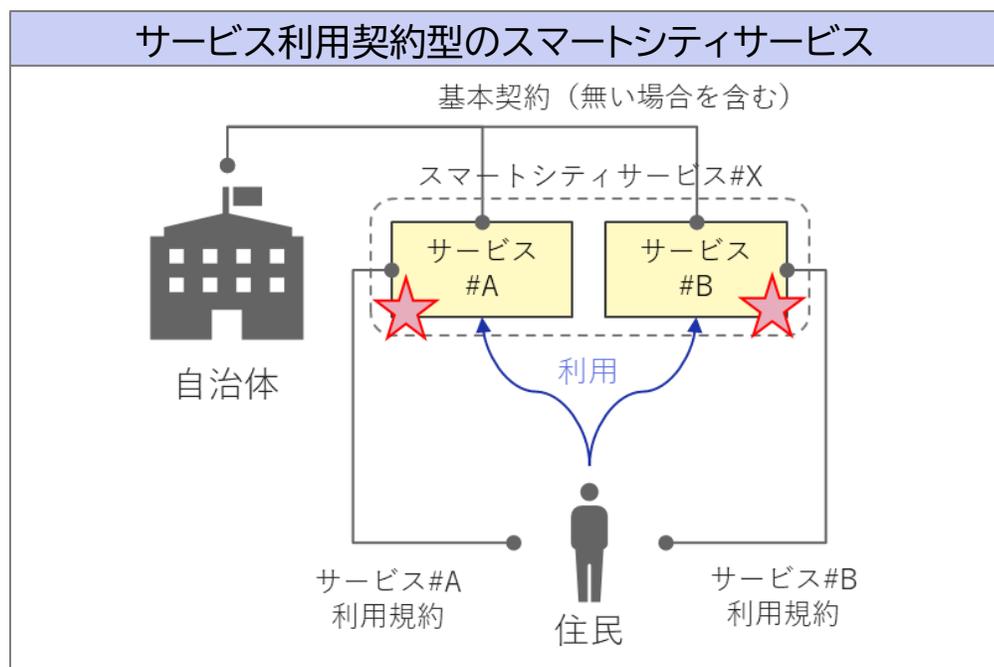
事業者間でのデータ流通の柔軟性・サービスの拡張容易性

事業者にとって、データを扱いやすく・流通しやすく・拡張しやすい仕組み

データ管理の責任と権限範囲を考慮した契約形態の選定

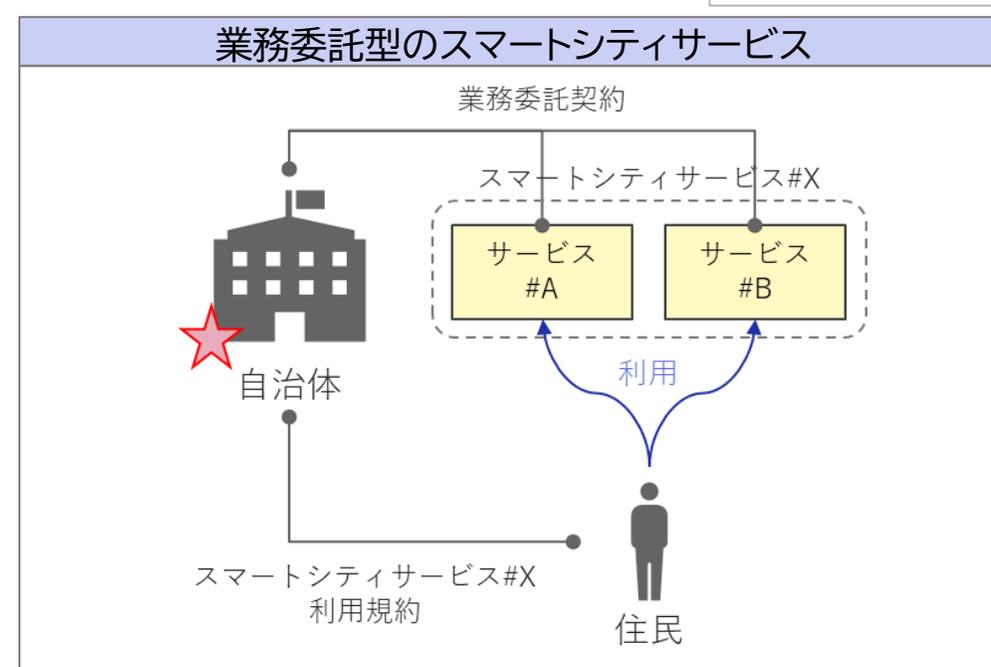
- 自治体が住民に対しスマートシティサービスを提供する上で、契約スキームは大別すると主に2つのパターンがある。
- 『サービス利用契約型』 : サービス提供主体およびデータ取得主体は各サービス事業者が担う。
『業務委託型』 : サービス提供主体およびデータ取得主体は自治体が担う。

凡例
 ★ サービス提供主体
 ●—● 契約



[サービス#A] および [サービス#B] は、
 各々が提供するサービスに関する責任を負う

メリット: 責任が各サービス事業者に分散される(統率は取りにくい)
 デメリット: サービス間でのデータ流通が第三者提供になる

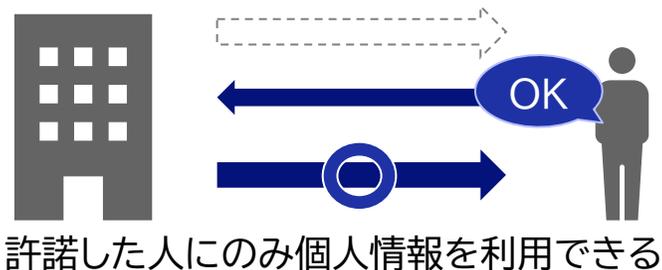


[自治体] が [サービス#A] および [サービス#B] を含む
 [スマートシティサービス#X] に関する責任を負う

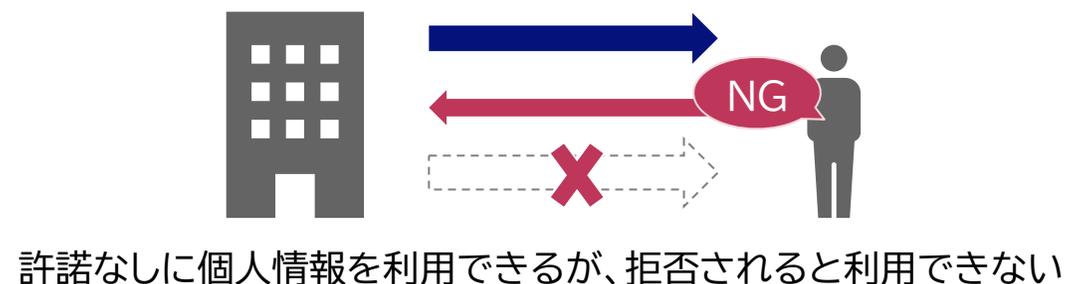
メリット: サービス間でのデータ流通が第三者提供にならない
 デメリット: 責任が自治体に集中する(統率は取りやすい)

- 本人同意を取得する方法として、オプトインとオプトアウトがある。
取り扱う情報・個人への納得性・事業者の手続き等を考慮して、選択する必要がある。

<オプトイン方式>



<オプトアウト方式>



オプトイン方式

メリット

- ・明示的に個人から本人同意を取得するため、**個人の納得性が高い。**

デメリット

- ・個人、およびサービス事業者の**手続き負荷**がある。
- ・同意が得られない限り、第三者提供ができない。

オプトアウト方式

- ・個人、およびサービス事業者の**手続き負荷**がかからない
- ・**拒否の届けがない限り、第三者提供**ができる。

- ・**個人の納得性が低く、クレームに繋がるリスク**がある。
- ・個人情報保護委員会への届け出および公表を要する。
- ・要配慮個人情報は**取り扱い**できない。

データ流通の柔軟性・サービスの拡張容易性(1/2)

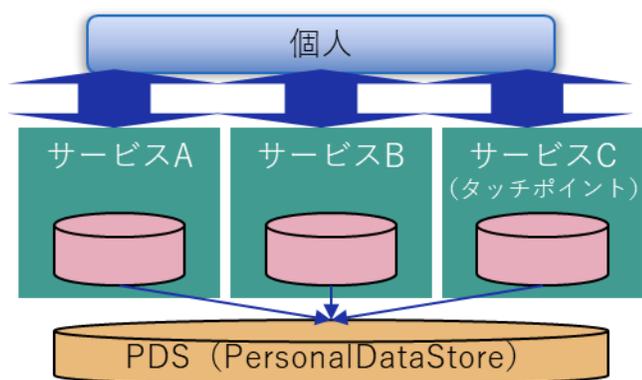
- サービス導入時と拡大時では求められる性質が変化し、運営上のリスク増加が想定される。
- サービスの段階と規模を考慮した提供スキーム・データ管理方針を、予め検討する必要がある。

導入時:提供サービスの数が少ない。
 ⇒業務委託契約x集中管理型の基盤は導入しやすい。

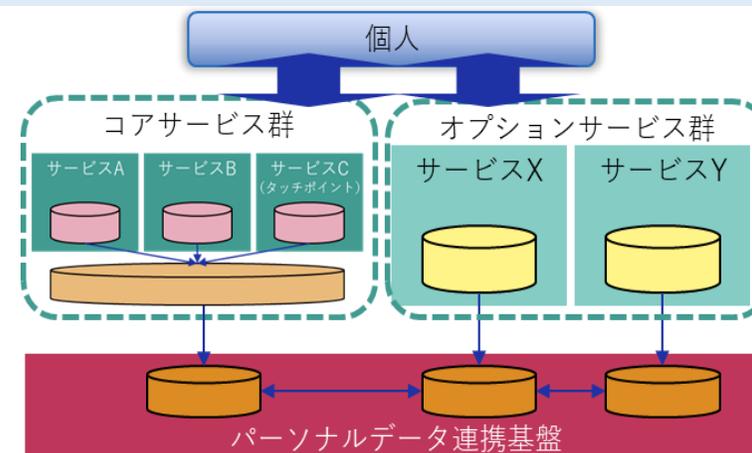
自治体は管理下でのサービス提供も可能レベル
 個人は対象自治体におけるサービスが目的
 事業者は対象自治体向けサービスを構築・提供

拡大時:提供サービスの数が増える。
 ⇒サービス利用契約x分散管理型のほうが拡張性で優れる。

事業者は利用者拡大や他自治体でのサービス提供を想定
 個人はよりパーソナライズされたサービスを要求
 自治体での管理は負荷やリスクが高い



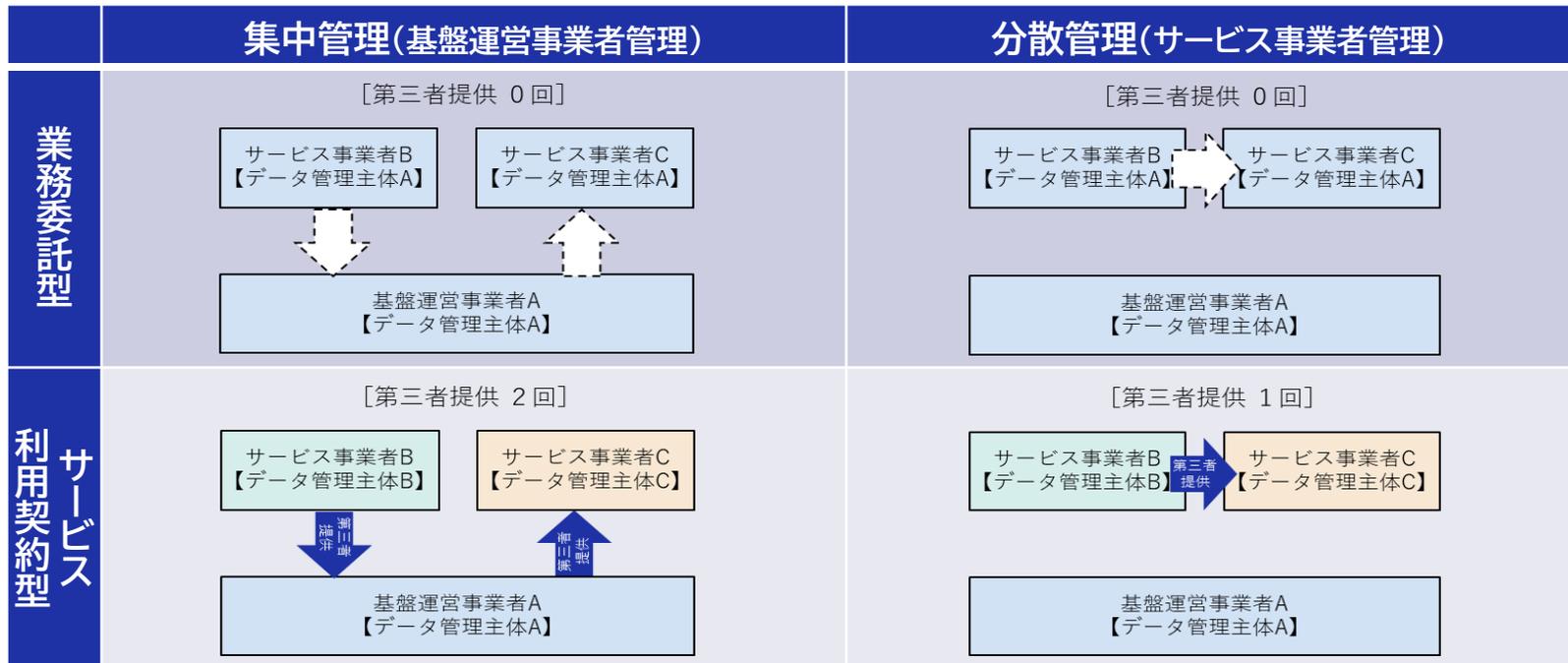
業務委託契約x集中管理型のイメージ



サービス利用契約x分散管理型のイメージ

データ流通の柔軟性・サービスの拡張容易性(2/2)

- データ管理やサービス管理の主体者を規模に適した方式を採用し、メリットやデメリットを把握した上で、基盤の在り方を検討する必要がある。



自治体がサービスを管理

- 第三者提供に該当しない
- ✗ 全サービスに個人データが流通する

各事業者がサービスを管理

- 個人が利用サービスを選択できる
- ✗ 第三者提供に該当する

自治体が流通データを管理

- 自治体が流通するデータを把握できる
- ✗ 事業者が参入しにくい

各事業者がデータを管理

- データの管理責任分解が容易になる
- ✗ 流通させるデータの形式整合が必要

スマートシティにおけるパーソナルデータの取り扱いの要点についての理解浸透
パーソナルデータの利活用機会は高まっているが、取り扱いに関する基礎知識、モジュールの機能や運用の理解を進めなければならない。本資料で解説した内容を、パーソナルデータ連携基盤の要件検討へ活かしていただきたい。

コミュニティの持続的活動とパーソナルデータ連携モジュールの持続的な発展

モジュールの持続的な発展には、OSSコミュニティの貢献協力者が不可欠である。モジュールそのものの利点とOSS利用の留意事項を理解いただき、利用の際はコミュニティへの貢献に協力いただきたい。(設計成果物の公開やツール製造など)

